

# 今後の財政運営の見通し

## 収支の状況

平成29年度から平成36年度までの単年度収支（前年度繰越金を除く）は、3つの年度において黒字となり、5つの年度において赤字となる見込みです。大型事業が集中する平成30年度の単年度赤字が3・40億円と大きなものとなっております、8年間にお

（単位：億円）

区分	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
歳入	206.07	217.67	204.17	196.14	195.88	195.35	193.82	192.61
歳出	207.47	221.07	205.22	195.88	194.93	195.59	194.37	192.24
歳入歳出差引 （単年度収支）	△ 1.39	△ 3.40	△ 1.05	0.26	0.95	△ 0.25	△ 0.56	0.37
単年度収支 累積額	△ 1.39	△ 4.80	△ 5.84	△ 5.59	△ 4.64	△ 4.88	△ 5.44	△ 5.07

※区分ごとに四捨五入しているため、合計や差し引きが一致しない場合があります。

ける単年度収支の累積額は5・07億円の赤字となる見込みです。

## 『財源調整用基金等』の状況

『財源調整用基金等』は、安定的な財政運営を行うための市の預金です。各年度の収支について、黒字となる年度はその額を預金し、赤字となる年度はその額を預金から下ろし

（単位：億円）

区分	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
財源調整用基金等	10.64	7.27	6.24	6.52	7.50	7.28	6.74	7.14
財源調整基金	4.47	1.07	0.02	0.28	1.23	0.98	0.43	0.80
減債基金 （ルール外）	0.59	0.59	0.59	0.59	0.59	0.59	0.59	0.59
北海道市町村 備荒資金組 合超過納付金	5.59	5.61	5.63	5.66	5.68	5.70	5.72	5.75

※区分ごとに四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

て対応することとして基金の残高を推計しました。

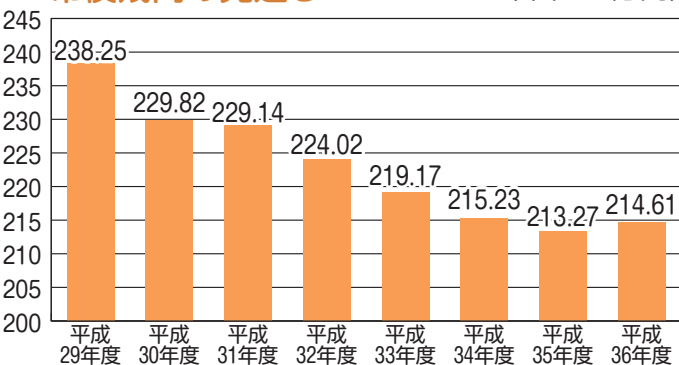
単年度収支が大きく赤字となる平成30年度末に7・27億円に減少し、その後はおおむね横ばいで推移します。最終年度となる平成36年度末の『財源調整用基金等』の残高は、7・14億円となり、平成29年度末に比べ3・50億円減少する見込みです。

## 市債残高の状況

市債の残高は減少傾向で推移する見込みであり、平成36年度末残高は平成29年度末に比べ、23・64億円減の214・61億円となる見込みです。

## 市債残高の見通し

（単位：億円）



## 今後の財政運営について

今回の『中期財政見通し』では、8年間における単年度収支の累積額が5・07億円の赤字となりました。この累積赤字については、『財源調整用基金等』の取り崩しにより対応することが可能ですが、平成30年度以降は基金残高が6億円から7億円で推移する見込みであり、不測の財政需要に対応するには十分な額とは言えません。特に財政調整基金の残高が、平成29年度の4・47億円から平成36年度には0・80億円にまで減少するなど、これまでも増して厳しい財政状況が続くことが見込まれます。

今後も市民生活に必要なサービスを維持しつつ、さまざまな財政需要に対応していくため、今回の『中期財政見通し』を一つの目安としながら、市民のニーズや事業の費用対効果、優先度などを十分に検討し、事業の見直しや受益者負担の見直しに取り組みることにより、各年度の単年度収支の改善や基金残高の確保に努め、財政の健全化を図っていきます。

『中期財政見通し』について詳しく知りたい方は、  
▼問い合わせ 財政グループ  
（☎ 051-3331）